

第1回 酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨

1. 日時

平成27年6月1日(月) 13:30~15:30

2. 場所

酒田産業会館4階「日本海」

3. 出席者

【酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員】

伊藤 則義委員(酒田市自治会連合会連絡協議会)、後藤 郁子委員(庄内地域子育て応援協議会)、阿部 直善委員(酒田市社会福祉協議会)、加藤 明子委員(さかた結婚推進連絡協議会事務局)、工藤 佐規子委員(まつやま愛里人)、中原 浩子委員(東北公益文科大学)、田中 麻衣子委員(ヤマガタ未来ラボ)、相蘇 信広委員(酒田市PTA連合会)、佐藤 淳司委員(酒田商工会議所)、富樫 秀克委員(酒田ふれあい商工会)、菊池 武彦委員(酒田青年会議所)、阿部 茂昭委員(庄内みどり農業協同組合)、佐藤 実委員代理(酒田市袖浦農業協同組合)、高橋 治雄委員(北庄内森林組合)、田村 勇次委員(山形県漁業協同組合)、原 清文委員(酒田公共職業安定所)、斎藤 直樹委員(庄内総合支庁地域振興課)、高梨 博実委員(飽海地区高等学校長会)、吉村 昇委員(東北公益文科大学)、鎌田 剛委員(東北公益文科大学)、前田 新一委員(酒田金融協会)、阿部 秀徳委員(連合山形酒田飽海地域協議会)、山川 敏春委員(山形新聞社)

【事務局(酒田市)】

市長、総務部長、地域振興調整監、市民部長、健康福祉部長、建設部長、農林水産部長、商工観光部長、教育部長(代理:教育委員会管理課長)、政策推進課長(欠席:企画振興部長)

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、課題や現在の取組、施策の今後の方向性について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 酒田市の産業構造が県内市町村・類似市町村に比してどのような特徴があるかわかるデータや、酒田市の地理的、歴史的背景等のイメージがあれば、より議論しやすい。
- 可能であれば、高校新卒者が進学、就職で転出する時期以外に転出する人に対し、理由を聞いてみてはどうか。その理由を分析し、基本的方向に反映させるべき。
- 「創業」の規模はわからないが、今回の介護保険制度改正でも、地域の中に仕事を生み出す要素がある。
- 地域活動やボランティアは、自分たちの力で支えあいの地域を作っていくものであり、出会いの機会にもなり、結婚にもつながりうる。総合戦略のメニューやイメー

- ジにあまり拘らずに、幅広に位置付けた方がよい。
- 就農しようとする若者に対し、希望を与えるような期待感のある施策を行う必要がある。
 - 山形新幹線の庄内延伸について、署名運動を行っていききたい。
 - 週に4日間だけ正社員として働いたり、一人で複数の仕事を掛け持つ等、働き方の柔軟性が増すと、U I ターンの幅も広がってくるのではないか。
 - 晩婚化が進むことにより、介護しながら子育てしなければいけないケースが増える。介護が原因で仕事を辞める人は多く、サテライトオフィスの開設や、テレワークの導入が有効という意見がある。
 - 東北公益文科大学の定員が充足されれば酒田に800名超の若者を呼び込むことが可能となる。そういった意味で、基本目標②「酒田への新しい人の流れをつくる」の部分にも大学関連の施策を位置づけていただきたい
 - 現在、国から4つの基本方針が出ていて、そこに従うことも必要だが、10～20年後、どのような酒田市像を描くのかという哲学、志のようなものが必要。
 - 人口減少社会になっていくので、一つのモノに複数の役割を担わせることにより複合価値を産み出し、地域の中で循環させる社会を目指してはどうか。
 - なぜ子供を産めないか、困っている人に理由を聞けば、解決するチャンスがあると考える。
 - 庄内地域において実施したアンケートで、「他地域への進学後、庄内に戻って来る」と回答した生徒は3割。戻ってこないと回答した生徒が4割。未定が3割。未定と回答した3割は、将来、具体的にどの場所でどう働くかというビジョンが曖昧で、地元のことをよく知らない場合が多い。そういった生徒に地元の魅力を発信していく必要がある。
 - これまでの婚活事業は、結婚をしたい希望があるのに出会いが無いという前提で進められてきたが、最近は結婚に対する夢が無くなってきており、「結婚の希望をかなえる」というよりは、「結婚に対する希望を持たせる」必要がある。既婚者が結婚の素晴らしさを発言していくことも、オール酒田での婚活へのサポートになる。
 - 結婚式場で高校生にプランナーをさせることにより、結婚の素晴らしさを伝えるという事業があった。また、高校に企業が出向き、職業体験を通して地域の職業の素晴らしさを学ぶ事業も他市で行われている。酒田市の場合、行政も企業も様子見しているような印象を受ける。
 - 交通インフラの整備（高速道路、新幹線の山形延伸、酒田港の有効利用）は、地域にとっては重要なことである。
 - 森林は負債ではなく資源。小規模な発電等の自然エネルギーの活用は産業になりえる。基本方針の中にも位置付ければよいのではないか。
 - 資料の具体的な施策について、どこの市にも当てはまるような、似通ったものになっている。「選択と集中」の観点から、予算を使う以上、「ここは絶対に力を入れていく」という部分を強調すべき。
 - 人口10万人規模の市に大学があるというのは財産。今後、酒田の発展のためには、

- 市も一体となって、大学という財産を有効活用した方が良い。
- 他市の港には豪華客船が停泊し、ホテルに多数の外国人がいた。酒田市においても、観光としての港の有効活用を検討すべき。
 - 地域経済活性化のベースになるのは交通インフラである。新幹線の庄内延伸や新庄-酒田間の道路整備については、一つのテーマとして掲げてよいのではないかと考える。
 - 現在の総合戦略のイメージには、酒田らしさがあまり見えない。酒田には、歴史風土、海、夕日という大きな財産がある。身近な資源をブラッシュアップして市民の誇りとし、観光のみならず、婚活や起業関連の事業においても上手く活用できればよいのではないか。
 - 交通網については、コンパクトシティという流れの中で、酒田港線を上手く活用できないかと考える。
 - 酒田港は重要港湾であり、漁港の機能も持っている。酒田港だけで山形県の半分の水揚げ量があり、いかに水産物を売り込むかが重要である。
山形県は、農業県のイメージが強く、水産業があまりイメージできない。この総合戦略の中に、水産業および魚介類をPRするような振興策をもう少し入れ込むべき。
 - 今回、人口ビジョンの実現に対して総合戦略を策定するわけだが、酒田の特徴というものをしっかり入れていく必要がある。企業誘致やUターン施策といった基本となる手法は変わることは無いとは思いますが、しっかりと自己分析を行ったうえで酒田らしさや酒田の魅力を総合戦略に入れ込むことが重要。
 - 子育て世代を呼び込むには「住」と「雇用」を確保することが絶対に必要。
 - 酒田は港町にも関わらず全く活気が無い。酒田の強みは「港」と「観光」であり、それらを活用しなければ酒田が生き残る道は無い。